
「和を重んじる」社会を表す作品の制作

入れ子人形をモチーフとした作品

大池 友

札幌市立大学 デザイン学部 デザイン学科 4年

1411014@st.scu.ac.jp



卒業研究（作品展示）、幅 650mm× 奥行 400mm× 高さ 120mm（人形10体分の展示スペース）、2017 年
（写真は制作途中の作品です）

本作品は、鑑賞者が「自分たちは『和を重んじる』社会で生きている」ことを把握し、かつ、この状況を省みることが出来るような作品を制作することを目的とした研究の一環として、制作されている作品の一部である。

「和を重んじる」とは、「自分がどうしたいか」ではなく「周りがどう思うか」に重点を置く考え方であり、同一の価値と行動を押しつける側面も持つと定義する。「和を重んじる」社会では、一見すると無個性であるように思われる。しかし実際は、どの人間も個性に満ち溢れている。そんな社会を作品で表現することで、人々により現状を伝えやすくなると考え、このことを仮説とした作品の制作を行うことにした。

鑑賞者が作品に少しでも共感を感じたら、「和を重んじる」社会について関心を寄せるきっかけになると考える。

今回発表する作品は、入れ子人形（マトリョーシカ）をモチーフとした作品である。外側はリクルートスーツや制服

といった一様な姿をしているが、中の姿はひとつひとつ異なった個性を持っていたり、ハンディギャップを抱えていたりするという入れ子人形の作品を完成させる予定である。最終的に複数の入れ子人形を展示台の上に並べ、実際に中の姿を確認して鑑賞するインタラクティブな作品の展示を予定している。